【研究主題】　生徒が主体的に学ぶ長期休み課題

【副題】　Google を活用したプレゼンテーション活動におけるアクションリサーチ

秋田県立秋田高等学校
教諭 瀬尾 達也

1．はじめに

待ちに待った長期休み。わくわくする生徒を余所に、教師は学校から手の離れた子どもたちにどう勉強させるか頭を悩ませる。終業式の日に、宿題を大量に渡されてブーブー文句を言う生徒とあきれ顔の先生という光景が目に浮かぶことであろう。高校においても、多くの学校で課題として問題集を解かせ、休み明けに回収していることが多い。筆者が行った事前調査（N=10）によると、秋田県の高校英語では長期休み課題として、総合問題集や単語帳などの語彙に関するものが最も多く、次いで模試の過去問などの長文読解系や文法系課題を課していることが分かった。また、休み明けにはそれらの課題に基づいて課題テストを実施している学校が多い。しかし、これらの課題に対して教師は「答えを写している」や「生徒のやる気が上がらない」、「事後指導をどうすべきか」などの問題を感じているようである。なかには「成果があがっていない」や「最近は(課題を)与えないとやれない生徒が増えてきている」と感じている先生もいた。こうした問題点を克服し、生徒が主体的に学習に取り組める長期休み課題はどんなものがあるのか考えていきたい。

2．課題と仮説

この問題の原因は、教師の指導と学習者のニーズのミスマッチ(Kardijan, Emzir, & Rafli, 2017)にあると考えた。すなわち教師が学習者に身に付けさせたい知識・技能と学習者が身に付けたい、または表現したい内容が異なるためである。例えば、受動態の表現を身に付けさせたくても、生徒は受動態で表現する目的や意図がないため「やらされている」と感じ、教師側は生徒の姿勢を「受動的」と捉えてしまう。

そこで、総合問題集など正解が一つしかない問題を与える従来型の課題ではなく、生徒が自ら目標を定めて自発的に取り組める課題(関戸, 2018)として、プレゼンテーション活動が効果的なのではないかと考えた。新学習指導要領では 4 技能がさらに 5 領域に拡張され、「話すこと」が[発表]と[やり取り]の領域に分けられた。プレゼンテーションは「話すこと[発表]」に当たるが、話すことだけでなくスライドや原稿の文章を書いたり、それを読んだり聴いたりすることで、発表する側と聴く側双方が 4 技能を伸ばすことができる。

以上のことから、令和 3 年度秋田県立秋田西高等学校 1 学年の生徒を対象に、夏休みと冬休みの課題としてプレゼンテーション活動に取り組むことにした。

3．方法と実践

① 事前指導

長期休み前の授業時に、プレゼンテーション活動の目的と内容を説明した。目的は、

1．進学・就職先で研究成果や商品・サービスを効果的にプレゼンする素地を養う(キャリア教育)
2．英語で伝え合う技能を高める

の 2 点である。はじめに、見本となるスライドを用いて実際に教師がプレゼンテーションの手本を見せた。そのうえで、スライドの字数や見やすいフォントサイズなどを指導し、掲載する画像の著作権などの注意点やインターネット上のフリーサイト(「いらすとや」等)の情報を共有した。テーマはそれぞれ「夏休み中の生活」(夏休み)、「年末年始の過ごし方と今年の抱負」(冬休み）である。また、冬休み前には指標となるよう、スライドと発表それぞれについて評価のルーブリック（図 1）を示した。スライドの提出期限はどちらも休みの最終日の数日前に設定している。

評価	スライド	プレゼン
A	誤字・脱字がほぼなく、フォントの大きさや写真・イラストが適切である。	明瞭な声で、使う語彙レベルは聞き手に配慮し、聞き手の方を向いて話している。
B	誤字・脱字が多少あるが、フォントの大きさや写真・イラストも内容の理解を阻害していない。	明瞭な声ではあるが、語彙のレベルが聞き手に合っておらず、画面の文字を読んでいる。
C	誤字・脱字、フォントの大きさや写真・イラストなどが内容の理解を阻害している。	話している内容を理解するために聞き手が相当な努力を有する。
F	未提出、未完成	未発表

（図 1）ルーブリック

② 長期休み中

生徒たちはGoogle classroomにアップロードされた見本スライドの元データをスマートホンなどの各自の端末(当該校は県支給のタブレットの持ち帰りが禁止されている)からダウンロードし、スライドの編集作業とプレゼンの練習を行った。教師側はスライド編集の進捗状況をGoogle classroomから確認でき、適宜アドバイスをすることが可能である。また、提出した生徒にはフィードバックを与え、修正を促すようにした(図２)。

（図２）スライドへのフィードバック

③ 発表

長期休み明けの授業時に、各クラスでタブレットからGoogle classroomに接続し、スライドを電子黒板に写し出して発表した。聴いている生徒たちはGoogle Formsで作成した各発表者のフィードバックシートで相互評価を行った。また、教師は発表を動画で撮影し、同時にルーブリックを参照して評価を行った。

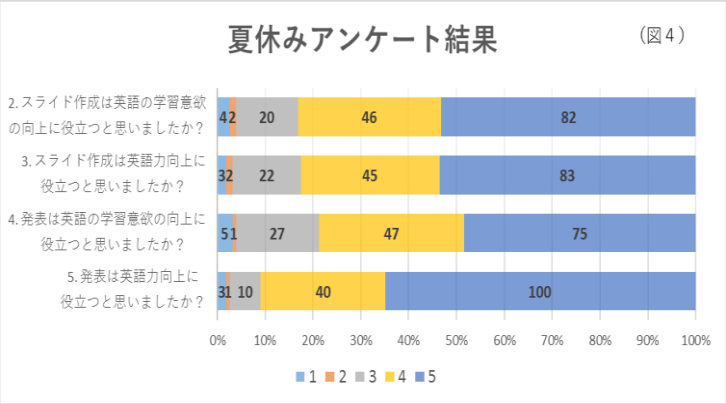
（図３）発表の様子

④ 事後指導

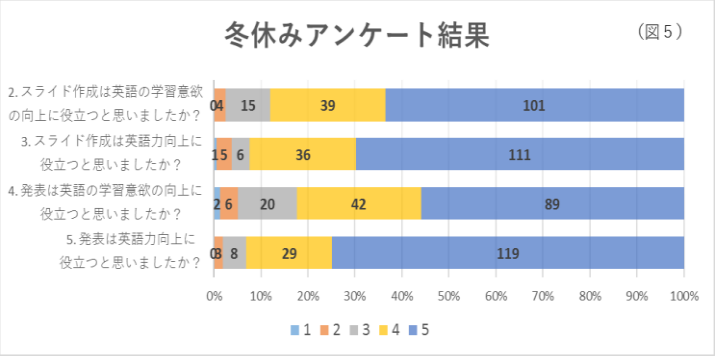
Google classroomを通じて発表の評価とコメントを返し、他の生徒からの相互評価とフィードバックシート、発表時の動画を共有した。また、同じくGoogle Formsで作成した自己評価シートとプレゼンテーション活動の評価シート（付録１）に５段階（１：思わない→５：思う）でこの活動の評価をしてもらった。

４．結果

ここでは評価シートの項目のなかでも、特にスライド作成と発表が学習意欲や英語力向上の面でどう影響を与えたかに焦点を当てる。全項目のアンケート結果は付録２、３にて確認されたい。



（図４）夏休みプレゼンテーションアンケート結果



（図５）冬休みプレゼンテーションアンケート結果

図４、５から、約80%以上の生徒が４以上の評価をしており、スライド作成・発表ともに学習意欲や英語力の向上に役立つと感じたようだ。それぞれの質問事項の５段階評価の平均を見てみると、「3. スライド作成は英語力向上に役立つと思いましたか？」は夏休み明け（N=155）が4.31、冬休み明け(N=159)が4.58であった。「5. 発表は英語力向上に役立つと思いましたか？」は夏休み明けが4.51、冬休み明けが4.66、「2. スライド作成は英語の学習意欲の向上に役立つと思いましたか？」に対しては、夏休み明けが4.30、冬休み明けが4.49であった。「4. 発表は英語の学習意欲の向上に役立つと思いましたか？」については夏休み明けが4.20に対し、冬休み明けが4.32であった。５段階の平均値が4.20を超えていることからも、スライド作成と発表が学習意欲を高め、英語力の向上につながっていると感じていることが分かる。さらに、冬休み明けの方が夏休み明けよりも活動に対する評価平均が上がっており、回数を増すごとに学習意欲や英語力向上

の効果が高まっていると言える。また、この活動に対する感想や意見としては､以下のようなものがあった。

○ 学習意欲に関して

・英語の学習意欲が高まり、とても楽しかったです。またこのような活動をしてみたいです。(夏休み)

・長期休みのときにこのような課題が出ると楽しんで課題を行うことができたのでまたこのような活動をしたい。(夏休み)

○ スライドや発表の工夫について

・写真を使ったり、思い出を英語で表したりして、どうしたら相手に伝わるかを工夫をしてみて英語の能力や表現力が身についたとおもいました。(夏休み)

・スライドを作るとき、聞く人がわかりやすいように声のボリュームを考えたり、どのような工夫をすれば相手に伝わりやすくなるか考えさせられました。(夏休み)

・文字やイラストの配置を、どうすれば見やすいか、惹き付けやすいかを考えて作るのが難しかった。(冬休み)

○ 語彙力や表現力に関して

・自分でスライドを作ることで今まで知らなかった単語を知ることができたので良かったです。(夏休み)

・単語や文法を調べたり、発言したりして少し英語力がアップすることができたと思う。(冬休み)

・他の人のプレゼンを見て新しく学んだ単語や文法があって身になった。(冬休み)

○ ４技能５領域について

・プレゼンをすることで書いたり考えたりする力だけでなく、伝えたり発表したりする力が身につくと思う。(夏休み)

・自分で英作・リーディングができるので英語力を向上できると思いました。(夏休み)

・普段の授業では学べない、英語で話す力やプレゼンテーション能力を学ぶことができた良い機会だったと思う。(冬休み)

これらの感想や意見から分かる通り、伝えたいことを英語でどう表現するのか自分で考えたり調べたりするだけでなく、他の生徒の発表からも学ぶ点が多かったようだ。プレゼンテーションという創造的な課題が楽しいという意見が多く見られたと同時に、将来や日常生活でも生かせる表現力が身に付き、やりがいを感じていたようである。

５．考察

以上のことから、プレゼンテーション活動を長期休み課題に設定することのメリットを述べたい。

① 生徒の学習意欲向上

アンケート結果から、スライド作成・発表ともに学習意欲や英語力の向上の面で効果的である。それぞれの質問事項の評価平均値が 4.20 以上であることや生徒の感想・意見から、多くの生徒がこの活動を好意的に捉えていることが分かる。創造的な活動であったため、生徒は意欲的に取り組めたようだ。

② 生徒が伝えたい英語力の向上

テーマが日常生活に沿ったもので、生徒一人ひとり伝えたい内容が異なるため、それぞれが表現したい英語が身に付いたようだ。中には、休み中に Google classroom を通じて、どう表現すればよいか助言を求める生徒もいた。与えられた文章を英語にするのではなく、どのように伝えたらよいかを考えるようになったようである。

③ 長期休み中の学習状況のモニター

Google classroom を通じてスライドの進捗状況を常にチェックでき、それにより生徒の取り組み状況や様子を把握し、必要であればメッセージを送って指導することも可能である。

④ 教師の多忙化解消

提出された課題のチェックは教師にとって大きな負担となる。未提出者への対応や不十分なものは再提出させるなど、精神的にもストレスを感じる作業であろう。スライド提出を長期休み最終日の数日前に設定することで休み明けの作業がなくなり、この負担は解消される。

⑤ キャリア教育・情報教育

この活動の目的でも触れたが、社会に出ると効果的にプレゼンを行う能力が求められる。自社の製品・サービスがいかに優れているかや顧客のニーズに沿っているか、などを伝えられなければならない。また、そのために魅力的なスライドや広告を作成することも求められる。この活動を通じて、社会で必要とされる２１世紀型スキルを養うことができるであろう。

6．今後の課題

当該校では、生徒は県支給のタブレットを持ち帰ることができなかった。ゆえに、生徒は各自の端末でスライド作成を行ったが、スマートホンでの編集作業に手間取る生徒もいた。アカウントの変更や Google スライドの編集の仕方等ももう少し丁寧に指導すべきである。また、この活動が生徒の英語力に与える影響について検証しなければならない。特に、長期的な英語力の変化については、英検などの外部試験を利用して測っていく必要がある。

参考文献

(1) 文部科学省. (2018).高等学校学習指導要領（平成30 年告示）解説 外国語編.

(2) Kardijan, D., Emzir, & Rafli, Z. (2017). The gap between learning needs and its' implementation in English for hospitality specific purposes program. *English Review: Journal of English Education, 6*(1), 125-135. DOI: 10.25134/erjee.v6i1.779.

(3) 関戸冬彦. (2018). 英語教育実践報告：-自発的な宿題への取り組みとコーチングの可能性-. *マテシス・ウニウェルサリス, 19*(2). 213-221. Retrieved from: http://id.nii.ac.jp/1140/00001337/

付録１　プレゼンテーション評価シート

活動について

(1～11 はすべて「思わない　1　2　3　4　5　思う」の５段階で評価)

1．プレゼンテーションの説明（目的・意図・例・テーマなど）は分かりやすかったですか？

2．スライド作成は英語力向上に役立つと思いましたか？

3．スライド作成は英語の学習意欲の向上に役立つと思いましたか？

4．発表は英語力向上に役立つと思いましたか？

5．発表は英語の学習意欲の向上に役立つと思いましたか？

フィードバックについて

6．提出したスライドに対する先生のコメントやアドバイスは適切でしたか？

7．発表に対するお互いのフィードバック方法(個人のフィードバックシート)は適切でしたか？

8．発表に対する先生のコメントやアドバイスは適切でしたか？

自己評価について

9．スライドの作成に積極的に取り組みましたか？

１０．発表に積極的に取り組みましたか？

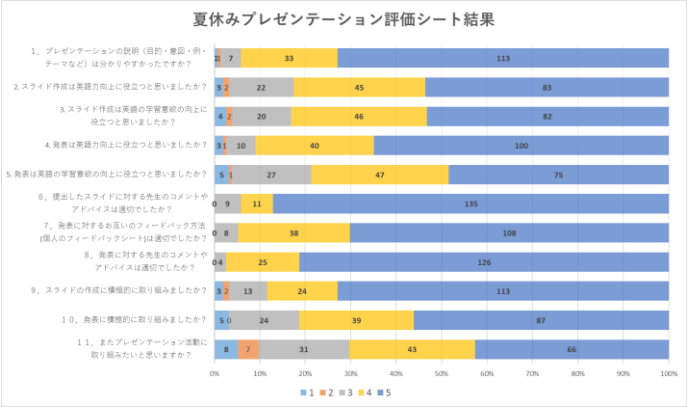
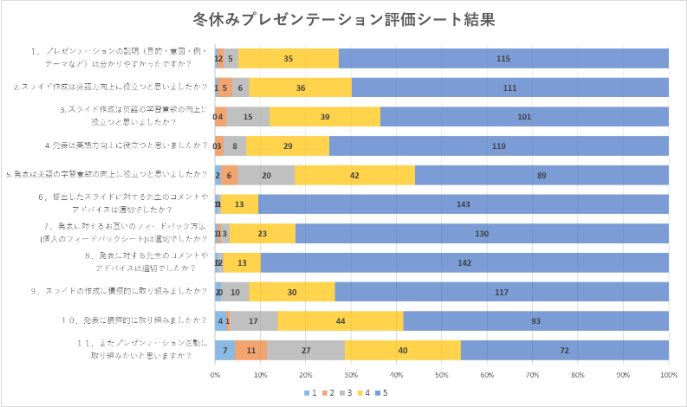
１１．またプレゼンテーション活動に取り組みたいと思いますか？

１２．自分の発表(動画)やフィードバックシートを見て感じたことや次のプレゼン活動に向けた改善点を書いて下さい。

総評

１３．この活動に対する感想や意見を記入して下さい。

付録２　夏休みプレゼンテーション評価シート結果



付録３　冬休みプレゼンテーション評価シート結果